

---

# キャトルスの伝説

RUSSET

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

キャトルスの伝説

### 【Nコード】

N4670H

### 【作者名】

RUSSET

### 【あらすじ】

キャトルスはもう安全な所ではない。ダークに何もかも奪われた。キャトルスの姫君ミンティーは彼女の仲間と一緒に失った物達を手に取り返す。でも、貴族のお嬢ちゃんは、何ができるのか？

## 第一話：黒空

ミンティイーは淋しそうに立っていた。悪い人たちがお城を襲っている！

その時、ミンティイーはハーヴの叫び声が聞こえた。ハーヴの周りには悪人たちがいる。

「ほら、見る！城の姫さんがいるぜ！」悪人の一人言った。  
「ハーヴ！」ミンティイーは何とか彼女の妹を助け出せた。

あたりはパニック状態だった。ダークネスからきた悪人たちは、ミンティイーが生まれた時からキャトルスの住民をさらってた。でも、今日の攻撃はこの10年の中で、一番ひどいものだった。

「ハーヴ、早く隠れて！」ミンティイーはわれに返って叫んだ。

その時だった。空から赤い雷が落ちて、悪人たちは帰っていった。赤い雷はBLACK CATダークの印。

二人は避難場に行った。そこには住民と、城の人が何人かいた。

「ルイ、ルネイ、ルーン、タイガー、シムとシミー！」とハーヴは、知っている人たちを見つけていった。

「姉さんたち！」ルネイはハーヴの元へ駆けていった。

「皆．．．良かった．．．無事で．．．」と、ミンティイーが呟いた。  
「でも、他にも一杯攫われた人達ちが居るわ！私、皆を助けなくちゃ！」

嵐が終わって、太陽が出てきた。

「それなら、私がお供しますわ。」と、ルーンが言った。

「あたしもあたしも！」とこれはルイ。

「僕も！」と、ルナイ。そして皆が行く事になった。

その時、ある外国の人が現れた。「もしかして、君たちダークネスに行くの？」と、彼が聞いた。

「貴方は誰ですか？」と、ルーンが聞いた。

「僕はモント・ブランク。ドグイシアから来たんだ。君たちダークネスに行くんだったら僕も行くよ。」と彼が言った。

「でも貴方が敵が見方か分からないのに・・・」とルーンが言いかけたときに彼は彼の人差し指をルーンの唇の上にお行った。

「僕が見方か敵でもダークネスに着くまで君たちを手伝うことは約束するよ。ただ、僕はダークネスに行きたいんだ。」と、モントが言った。

ルーンはモントの指を退けていった。「・・・良いでしょう。」

今日は日が出ている。冒険を始める日にぴったしだった。

「さあ、行こう！」とミンティーが叫んだ。他の皆はミンティーについていった。

## 第一話・黒空（後書き）

ついに第一話です。頑張りました。  
感想楽しみにしています。<3

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4670h/>

---

キャトルスの伝説

2010年10月31日00時59分発行